城山会会報

第55号

同窓会事務所
〒811-4192　福岡県宗像市赤間文教町１－１
福岡教育大学同窓会　城山会事務局
TEL／FAX　0940-33-2211
e-mail　jouyamakai@able.ocn.ne.jp
発行者　会長　太田　勝視
発行日　令和７年２月28日
印刷所　松古堂印刷株式会社

＜上段＞書道部「書道パフォーマンス」（宗像市立日の里中にて）、大学敷地内に新設される県立特別支援学校のイメージ図
＜下段＞附属久留米小学校「運動会」（高学年表現）、附属久留米中学校「藤見会『学年合唱』」

目　次

会長あいさつ …… 2
学長あいさつ・定期総会報告 …… 3
２月の集い、夏期研修会、附属学校の取り組みは今 …… 4
支会・支部の取り組み …… 5
大学・新卒・若手会員情報交換会、教師をめざして …… 6
わたしの教育実践 …… 7
大学時代の思い出 …… 8
第二の人生を生き生きと …… 9
教員採用試験の状況 …… 10
令和６年度役員組織、事業事績 …… 11
城山文藝、編集後記 …… 12

コロナ禍を乗り越え、活力ある城山会へ

会長　太田　勝視

コロナ禍を経て、城山会事業の正常な運営をめざして2年目となりました。本部が計画している活動は、コロナ禍以前と同様に確実に実施する姿が戻ってきています。また、各県支部・各支会活動も動き出しています。しかしコロナ禍以前と以後では、その活動の様相に変化が出てきています。福岡教育大学卒業生・大学院修了生への働きかけなどを行い活発に動いている支部・支会がある一方、まだ活動がやや停滞しているように見受けられる支部・支会もあります。活性化している支部・支会は、総会で若手会員に積極的に案内状を送付して支部・支会内の会員と役員に出会わせる、図書券等の記念品を有効に使うなどして、若手教員と先輩会員や役員が顔見知りになる活動を取り入れています。また、各学校別会員名簿を作成して、それらを活用して自分の地区の活動を着実に進められるようにしています。このような方法で、学生時代にコロナ禍を過ごした学生が気兼ねなく参加できる雰囲気づくりを行うことは大切です。

ここで本部の主な活動を振り返ってみます。事業部会では、城山会夏期研修会を計画し、8月4日(日)にサンヒルズホテルで実施しました。始めに県立高等学校支会の木村賢二幹事長と、次に北九州地区鞍手支会の下元照一支会長が実践発表を行いました。講師は元春日市教育長の山本直俊先生です。先生は、自らの具体的な実践事例を体系化して論理的に講話されました。広報部では、城山会会報55号の発行に向けて、常に計画的で着実な会合を開いています。女性部では会議・打合せを丁寧に行い7年2月1日(土)に女性部研修会「2月のつどい」を開催し120名を超す人が集まりました。青年部では6年8月10日(土)に青年部長会を実施し、7年1月25日(土)に北九州地区拡大青年部長研修会を行いました。北九州地区では以前から構想していましたが、今後他地区の青年部活動のモデルとなる取り組みです。7年3月1日(土)に学生・新卒・若手情報交換会を企画しています。また、本年度はパリパラリンピック柔道の部で同窓生の瀬戸勇次郎さんが金メダルを獲得する快挙もありました。その優勝に伴い祝賀会を急遽12月14日(土)に決定し、ＡＮＡクラウンプラザホテル福岡で実施しました。

このように本部事業の一端を並べてみると、順風満帆の城山会活動のように感じられます。しかし、城山会活動全般の実情はまだまだ不十分であります。たくさんの課題が山積しています。各学校では城山会関係者の管理職や中堅教員層が忙し過ぎて、本会の活動にまで意識が回っていないように感じます。また、最近、学校や市役所等に就職した若手会員の中には、自分が城山会会員であることや就職した地域に支部や支会があることすら知らない人もいるようです。今後、福岡教育大学卒業生・大学院修了生が学校や市役所等にいれば、今まで以上に支会入会呼び掛けを行い、意識づけをすることが大切です。

母校福岡教育大学の状況ですが、九州・沖縄地方における教員養成の拠点大学として、生涯にわたり学び続けるという基本理念を掲げて、実績をあげています。学部卒業生の教員就職者数、教員就職率共に全国トップクラスを維持しています。さらに福岡教育大学では博士課程設立の準備が進められており、来年度開校が決定されるという慶事がありました。これで福岡教育大学は名実ともに西日本を代表する教育大学となりました。

終わりに、城山会の再活性化を目指して、同窓の絆を今まで以上にみんなで広げ、深めていっていただきたいと思います。令和7年度には更なる高みを目指し「コロナ禍を乗り越え､活力ある城山会の再来」を期待しています。

定期総会報告

令和６年度の第49回定期総会は、４月29日（月曜日）午前11時より八仙閣本店において開催されました。福岡県内各支会、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県の各県支部の総勢122名が参集し、「優しさ・温もりのある城山会に！　同窓の絆を広め・深め合って、さらなる前進」の言葉をもとに、本年度の重点課題・事業計画について審議しました。議事は第１号議案から第５号議案まで原案通り可決されました。また、本部役員につきまして、長年にわたり本会活動にご尽力を頂きました４名の副会長、福岡市地区　阿部二三子副会長、福岡地区　釜瀬計副会長、南筑後

75年目を迎えて
教員養成の高度化に向けた取り組み

福岡教育大学　学長　飯田　慎司

昭和24年（1949年）に新制大学として設置された本学は令和６年（2024年）に75年目を迎えました。九州・沖縄地方における教員養成の拠点大学として、生涯にわたり学び続ける有為な教育者を養成するという基本理念のもとで、引き続き教員養成の高度化に向けた取り組みを行っております。

学部教育に関しては、学修者本位の教育を実現するために、令和５年度入学生から適用している学生組織改革、学位プログラムの中で各課程の主専攻に加えて〈選択領域〉を設定して学生の多様性に応じるカリキュラム改革、そして入学者選抜をプログラム単位で実施して学位プログラムの円滑な履修を可能にする入試改革を実施しました。

教員就職の状況についてご報告しますと、令和５年３月の学部卒業生の教員就職者435名、そして教員就職率が74.1％となり全国トップクラスを維持しております。また、令和６年３月卒業生もコロナ禍を乗り越えて、同程度の水準を維持しています。

なお、令和８年４月を予定しています県立特別支援学校の本学キャンパス内の設置に関しては、福岡県、宗像市及び本学との連携体制を整備し、その成果を活用した先導的な特別支援教育を実践することができるよう、引き続き連携の強化を図ります。

教職大学院についてですが、以前は修士課程もありましたので、教職大学院で教科教育等を学ぶことは少なかったのですが、修士課程の募集を停止して教職大学院に一本化した令和３年度より、教科教育等のコースを設けて、教員養成の高度化を図ってきております。そして来年度からさらに、特別支援学校の教員養成の高度化に資するコースを加えた教職大学院の再編を実施いたします。

学部卒業生でも教職大学院修了生でも、教職に就いた後は、各支部・支会を含めて、城山会の皆様に是非ともご支援いただき、本学の基本理念である生涯にわたり学び続ける有為な教育者の養成にお力添えいただきたいと存じます。

さて、修士課程や教職大学院修了を出願資格とする博士後期課程を、北海道教育大学、大阪教育大学との共同教育課程として設置することが正式に認可されました。この教育学研究科共同学校教育学専攻では、臨床的な研究力と教員養成の学識を備えた「教員養成担当大学教員」や「教員研修担当者」等を養成することを主目的としています。本学が取り組む教員養成の高度化を研究面からも支えるものとなっていくことを期待しています。

この75年間、本学が一貫して取り組んできた教員養成によって、数多くの優秀な人材を輩出して参りました。その事実は、城山会の皆様のご活躍やご功績が証明していると思います。皆様の母校である本学は、上で述べましたように、教員養成の高度化に向けた取り組みを行っておりますので、引き続き、本学へのご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

地区　安徳和幸副会長、女性部担当　竹井久美子副会長がご勇退され、会長より感謝状が贈呈されました。定期総会後には、懇親会を実施し、福岡教育大学学長　飯田慎司様をはじめ９名の大学役員の方々を来賓としてお迎えし、参会者一同で交誼を深めることができました。

（幹事長　笠　宏照）

令和5年度　学び合い、語り合う２月の集い

「２月のつどい」は、「女性部幹事・支会代表者会議」を発展させたもので、平成30年２月、80名の参加でスタートしました。

現在では男女を問わず参加者を募り、青年部とも連携して組織拡大や同窓の絆づくりを目指しています。

本年度の「２月のつどい」は令和６年２月24日に行い、109名の会員が集いました。次第に男性の参加も増え、男女共同参画社会の真の実現を願う女性部としてはうれしい限りでした。

講演は、「パラスポーツから考える共生社会」と題して、福岡教育大学卒業後、筑波大学大学院で学ばれている瀬戸勇次郎様です。彼は東京2020パラリンピック競技大会柔道男子66kg級（視覚障害）の銅メダリストです。パラスポーツに関するお話では、多様性を認め、「個別最適な学び」を保障する教育の在り方に新たな視点を示唆して頂きました。また、実践発表では、福岡市立香椎小学校の肥後橋遥教諭が、「特別支援学級担任としての取組と課題」と題して、一人一人の実態に即した教材や教育方法の工夫により、道徳科の学習に目を輝かせる子ども達の姿をお話しされました。お二人は福岡教育大学での同級生だったそうで、同窓会の役割も担えたようです。

瀬戸勇次郎様はパリ2024パラリンピック競技大会柔道男子73kg級（視覚障害）で金メダルを獲得され、素晴らしい感動を頂きました。

（女性部 部長　馬塲　肇子）

令和６年度　夏期研修会報告

◆研修会期日　令和６年８月４日
◆研修会会場　博多サンヒルズホテル
◆参加者人数　総計106名

最初の実践発表は県立高等学校支会の木村賢二幹事長の提案でした。コロナ禍でしたが、同窓会活動を停滞させることは好ましくないと判断し、高校の夏期の総会や懇親会を実践し続けたと歯切れ良く説明されました。

次に北九州地区鞍手支会下元照一支会長は、本部の方針に基づく支会活動・運営に触れた上で、組織活性化の方針と構想を丁寧に発表されました。両支会とも城山会全体に関わる組織問題の現状と解決策の観点から価値ある提案でした。各支会の参考になる貴重な内容でした。

全体講師は元春日市教育委員会教育長で、現山口短期大学学長補佐の山本直俊先生です。演題は、教育の充実を目指すひとつの提言～「学ばせていただいたこと」「今、考えていること」～です。提言一では「工夫を凝らした多様な視点からの取組」による生きる力、提言二では「各種関係づくり」の構築・促進による「共育力」の向上です。それぞれに具体的細目を掲げた講演でした。

参加者からは「私達だけで聞くのはもったいない、現役教師を続けている人に聞かせたかった等、多岐に渡る感想が聞こえて来ました。教育に対する熱い思いは、城山会同窓生共通の願いとして共有されました。

（本部副会長　谷　友雄）

附属学校の取り組みは今

福岡教育大学附属福岡小学校

校長　田中　健悟

昨今、社会や時代の変化とともに、不登校者数の増加傾向が止まらず、全国的に学校の魅力が失われつつあります。このような状況を踏まえ、地域のモデル校や先進校としての役割が求められる本校では、「令和の時代の魅力ある学校づくり」をめざすこととし、令和６年度から令和９年度までの４年間、文部科学省研究開発学校指定を受け、新規での研究をスタートさせました。研究テーマを「持続可能な未来社会を共創する主体の育成」とし、自律性・協働性・創造性を育むことを大切にしています。研究の内容としては、未知の状況に対応できる力を育む教科研究は引き続き大切にしつつ、その一方で、「社会に開かれた教育課程」を充実させる観点から、３つの新領域「個別探究（チャレンジ）」「異学年・同興味種探究（テーマ）」「生活創造活動」を位置付けたカリキュラム開発に取り組んでいます。

本年度の研究発表会は、令和７年２月７日、8日に開催いたします。教科学習においては真剣に学びに向かう姿を、そして新領域では、子供たちが興味関心に応じて探究する姿や、学校生活を充実させるために自律的・自治的に活動する姿を公開したいと考えています。

まだ新たな研究に着手したばかりですが、城山会の皆様におかれましては、是非ご参会いただき、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

福岡教育大学附属福岡中学校

校長　深川　成浩

本校は、教育目標「心豊かにたくましく、主体的、創造的に生きることができる生徒の育成」のもと、変化の激しい時代を生き抜く「たくましさ」を身に付けてほしいと願い、教育活動に取り組んでいます。生徒たちは、学習はもとより、「体育会」「文化発表会」「遠行会」などの行事を通して、本校のよさを感受しながら学びを深めています。

研修・研究面では、令和５年６月に閣議決定された「第４期教育振興基本計画」のコンセプトを受け、持続可能な社会の創り手の育成とウェルビーイングの向上をめざすために、学校教育でどのような取組が可能であるかを深めようと、研究主題「豊かな未来社会を切り拓く生徒の育成」を掲げています。そのために、これからの予測困難な社会で生き抜く上で、必要不可欠な資質・能力としてとらえる「問題発見・解決の力」に着目し、各教科等で研究及び実践を進めているところです。また、特別支援教育部では、生徒の「なりたい自分」の姿を実現するために、細分化された目標を一つずつ達成しながら自己認識の深まりを促すことをめざし、研究及び実践を重ねているところです。

城山会の皆様には、今後も本校へのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

支会・支部の取り組み

再開をはじめた支会の活動

糟屋支会　支会長　今長谷　義孝

令和５年５月の新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、ようやく社会も動き出しました。城山会糟屋支会も、４年間開催を控えていました支会総会を再開させ、第42回糟屋支会総会を令和５年９月に開催することができました。それから１年が経ち、定例の活動を少しずつ再開することができました。学校現場でもコロナ禍前の日常を取り戻したかに見える一方で、人々の意識は確実に変化し、その影響の大きさを日々感じているところです。

本地区では、小学校籍が中心となって役員を務める２年間と中学校籍中心の２年間で、支会を運営しています。令和５年度～６年度は、私たち小学校の職員が中心となって支会の活動を進めています。本年９月には130名程の参加のもと、第43回総会を開催いたしました。総会では、青年部が中心となり、初任の先生方を歓迎し、糟屋の中に脈々と続く城山会同窓の絆を確かめ合うこともできました。

総会での太田会長からのご挨拶

一方で、現職、退職、出向会員を合わせ700名あまりの会員の名簿確認、会費や郵送費、様々な事務分担など運営上の課題を抱えています。社会の変化に対応しつつ、同窓の方々との出会いを広げ、縁を深めていくことができればと願っています。

コロナに負けない、早い復活に成功

高校支会　幹事長　木村　賢二

高校支会の会員は全県下におり、その把握と連絡、加えて総会・懇親会の設定（特に会場）が難しいという悩みを抱えています。今回はコロナ禍を挟んだ取り組みについて報告します。

１　コロナ以前から工夫したこと

①総会・懇親会の開催日と会場の固定

ア　開催日は８月の第３または第４土曜日
　　開始時刻は15時ごろ（今年度は17日に開催）

イ　会場は博多駅付近（現在はANAクラウンホテル）

②大学や県庁を交えた懇親会

来賓には城山会本部三役、学長・副学長、大学支援委員長、県教委が参加

２　コロナ以後の取組

①事務局にOB担当を新設

OB担当は現場の校長、現役担当は教頭と教諭から選出（OBへの連絡が徹底し、総会懇親会には約10名の参加。支援金は30名程度集まっている）

②通信費を減らす方策

ア　OBは直近７年の参加者と返信があった人のみ（約80名）

イ　現役会員　本会所属の管理職（約40人、県下の1/3）にメールで発信し、管理職は所属校の会員に案内

コロナ禍においても本会員の懇親会への熱意は高く、令和４年８月20日に40名の参加で復活開催しました。本年度は60名に増え、来年以降に弾みがついたと実感しています。

同窓の絆を後輩に

大分県支部　会長　岩尾　亮

表題の言葉は、今から６年前、太田会長、角副会長にご来賓として来ていただいて開催した、「城山会」大分支部発足会で私があいさつの中で使った言葉です。45年前、帰郷して教職に就いたとき、私の周りは、管理職を含め、ほとんど大分大学出身者が占めていました。同窓会費を集めるのは教頭の仕事になっていましたが、出費に愚痴る同僚の横で、ほっとしながらも、なぜか寂しさを覚えたのを思い出します。7年前、定年退職の年に、福教大出身の新規採用者が着任してきました。校長面接の中身は、ほとんどが赤間の話題でした。38の歳の差も関係なく、学生時代に戻っている自分がいました。６年前の発足式の参加者は22名、今年８月の総会参加者は7名です。コロナ禍を経験し、組織の捉え方も変わってきて、維持発展がより困難な状況になっています。しかし、これから大分に帰ってくる後輩のためにも、また気にかけて毎年大分に足を運んでいただいている太田会長の恩に報いるためにも、支部の充実・発展に努めたいと思っています。

総会では太田会長とご一緒に

青年部の取り組み

第８回 大学・新卒・若手会員 情報交換会

令和６年３月２日（土）に「学生・新卒・若手会員情報交換会」をオンラインで開催しました。学生を含め参加者は51名、他県から参加してくださった卒業生もいらっしゃいました。コロナ禍で始めたオンラインによる情報交換会でしたが、企画として定着しつつあり、内容や方法も年々バージョンアップされています。県外をはじめ、遠方からでも気軽に参加できることや学生のニーズに応えることができることが大きなメリットとして感じられます。

zoomを活用し、全体で始めの会を実施後、参加者を10のグループに分け、青年部幹事を各グループのファシリテーターとし、それぞれのブレイクアウトルームで交流しました。採用を待つ学生からは「４月までに何をしていたらよいのか」「教材研究にどのくらいの時間を費やしているのか」「授業以外の仕事はどんなことをしているのか」など、働く姿をイメージした具体的な質問が多数ありました。それに対して、若年教員が自己の経験をもとに寄り添いながら応答し、不安解消に繋げることができていました。若年教員にとっても自分自身の実践をアウトプットすることで改めて振り返り、「もっとこうすれば効果的だったかもしれない」などといった思考を働かせる効果もありました。

今日、大量採用期にあって人材育成が喫緊の課題となっています。また、離職者の増加も大きな問題です。この事業は、単に会員相互における同窓意識の高揚を図るだけではなく、同じような悩みを抱えている同世代と思いを共有したり、解決策のヒントを得たりすることで「自分だけではない」「明日からやってみよう」などといった前向きな気持ちを喚起することにも繋がります。その結果、前述の課題解決の一助にもなると考えます。

時折、「できないから…」「分からないから…」「言っても伝わらないから…」そういった声を耳にしますが、果たして本当にそうでしょうか。子供たちが初めてのことができないように、何度も繰り返す中で習得していくように、失敗を重ねながら上達していくように、若年教員もそのようなプロセスを踏むことが大切なように感じます。その過程で自ら課題を捉え、改善するように仕組むことが我々に求められているのだと考えます。大人だから分かる・できるというわけではなく、できなくて当たり前なのです。

社会が大きく変わっている今、育ってきた環境も人の考え方も変わってきています。これまでの常識が非常識になることだってあるのです。「自分たちはこうだった」は通用しません。我々にも常にアップデートが必要です。ここ数年、この事業を運営してきた中で、多くの学生・若年教員と出会う中で、私自身にとっても考えるきっかけをいただきました。

（青年部　部長　辻　聡一郎）

教師をめざして

子どもの立場になって考える

初等教育教員養成課程　４年　藤原　夏生

私が教師にとって一番大切だと思うことは、一人一人の子どもに寄り添い、子どもの立場になって考えるということです。一人一人に寄り添ったり、相手の立場になって考えたりすることで、多くの子どもが多様性を認め合い、楽しく学校に行くことができるようにサポートをしていけると思うからです。例えば教育実習や学生サポーターの期間では、多くの子どもたちと積極的に関わることを常に意識して過ごしました。休み時間や給食時間、授業で机間指導を行う際も教室にいる全ての子どもたちと関わり、頑張りを認めることや、寄り添いながら前向きな声掛けをたくさん行うことなどを心がけました。このように関わることで、子どもたちから笑顔を引き出し、よりよい関係を築くことができました。

また、相手の立場になって考える際に、自ら積極的にコミュニケーションを図ることも大変重要だと考えています。私は課外活動でアメリカンフットボール部に所属しており、現在は、チーフマネージャーというスタッフのリーダーとして日々の練習に励んでいます。チーフマネージャーという役職を通して、一人一人に率先して声掛けを行い、寄り添うことでモチベーションを維持させ、周りと協力しながら責任をもってマネージャーという役割に取り組むことの大切さを改めて学ぶことができました。他大学の方と交流する機会も多く、コミュニケーションを通し、相手が何を求めているのかを常に考えながら行動することの必要性も感じました。

大学生活を通して学んだ多くのことを生かしながら、全ての子どもに寄り添い、子どもの立場になって考えられるような教師になりたいです。

わたしの教育実践

郷土「こうげ」を愛する子どもを育てる

上毛町立南吉富小学校　校長　白石　由美　S62卒

上毛町立南吉富小学校は、福岡県の東端に位置し、山国川をはさんで大分県と隣接する自然豊かな田園地域にある学校です。学級数９学級、児童数197名です。学校教育目標は、「郷土『こうげ』を愛し、自ら学ぶ意欲に満ちた、心身共に調和のとれた子どもの育成」です。平成29年度からコミュニティ・スクールが始動し、食育を重点に「上毛の自慢野菜を育てる」「米を育てる」「お弁当づくり」「もちつき大会」などの体験活動を通して、地域のひと・もの・ことと連携して取組を進めています。また、登下校の安全パトロールの見守り活動「南っ子を育てるネットワーク」と連携した安全教育も行っています。

令和２年度から３年間、福岡県重点課題研究「学校における食育の推進」に取り組み、食を大切にする資質・能力を高める食育を目指して実践を進めてきました。上毛町の特産品であるスイートコーンやさやえんどうは、朝、農家の方が収穫したものを２年生の子ども達が皮をむいて、その日の給食に全校でいただきます。９月には、３年生が育てた上毛町の特産品「ＥＴかぼちゃ」を収穫しました。収穫する時の子ども達は輝いています。夏休みには、家庭と連携して５年生は「ゆで野菜サラダづくり」６年生は「家族を元気にする朝食づくり」にチャレンジしました。家庭科の調理実習を生かして、計画を立て、家族の好みや上毛町の旬の野菜を使って献立を立てました。報告会では、子ども達は、達成感や満足感に溢れた姿で発表していました。本年度は、上毛町学力向上検証委員会の指定を受けて、「自らの問いを大切にしながら主体的に追究する子どもを育てる学習指導」のテーマを掲げ、研究発表会に向けて実践に取り組んでいます。学校の学力の実態分析をもとに、子どもに身につけたい資質・能力を教職員で共有しました。さらに、授業評価アンケートの結果分析から学習課題と出会い「なぜだろう。」「どうしてだろう。」「やってみたい。」と思う授業展開となるために、子どもの問いを大切にする授業づくりを目指しています。よりよい授業づくりのゴールには、子ども達が輝く学びがあり「こうげ」を愛する子どもが育つことを確信しながら、家庭や地域、教職員と実践を進めていきたいと思います。

２年「えんどうのさやむき体験」

楽しんでルールを守る

筑後市立松原小学校　教諭　松田　美春　R3卒

新規採用教員として松原小学校に赴任して４年目になります。本年度５年１組担任として受けもっている子どもたちは、２年生と４年生の時も担任した学年で、やる気いっぱい元気いっぱいのエネルギーに溢れた子どもたちです。

昨年度４年生担任の時の実践です。教師の指導に反発してしまう子どもがいました。「○○しなさい」という言葉に反発する子がいる中での指導は難しく、楽しんでルールを守ることができたら良いなと思いました。そこで学級目標「たくましい」にちなんで「時間守りマッチョ」という活動を始めました。チャイムやタイマーなどの時間を全員守ることができたら、全員で「時間守りマッチョ」と声を合わせてマッチョのポーズをとります。そして教室に掲示された腕のイラストにシールを貼って力こぶを作るという活動です。ルールを守ることができたら、みんなで声を出して喜べるのが楽しいのか、子どもたちは熱心に取り組むようになりました。「時間に間に合うように行動しなさい」と指導していた時は反発していた子も、自ら「マッチョしたいから座らないと！」とルールを進んで守れるようになりました。周りの子どもたちも「あと１分だよ！マッチョできなくなるよ！」と声を掛け合うようになりました。クラスが一丸となって楽しみながら活動に取り組むことで、集団としてルールを守りたくなる雰囲気を作ることができたことが大きかったのではないかと思います。

本年度は５年生、高学年となり、声を合わせることはしていませんが、全員で決めた特定の先生の所に最高のあいさつに出掛ける活動に取り組むことで、楽しみながら自らを高めています。

もちろん楽しいばかりではルールを守ることはできませんが、教師も子どもも笑顔でルールを守ることができたら嬉しいなと思い、いろいろな活動に取り組んでいます。これからも子どもたちと一緒に私自身も楽しみながらルールを守ることができる学級づくりに努めたいと思っています。

マッチョを目指す子どもたち

大学時代の思い出

学芸大学・教育大卒業

中間支会
小学校課程音楽科　S44卒　井上　俊子

私の学年は、福岡学芸大学入学、福岡教育大学卒業の学年です。小倉分校では合唱団での活動が一番の思い出です。合唱団に入っていた私は、小倉分校サヨナラコンサートをして、新築の赤間の校舎に３年生で移りました。赤間駅から満員バスに乗って、通学しました。校舎は新しかったのですが、それ以外の施設設備は徐々に造られていきました。学生食堂は、初めからありました。一番高いメニューは定食で50円だったように記憶しています。私の高校からたくさんの友達が入学しましたが、分校がばらばらで、統合された時は、親友とまた一緒になれて、うれしかったです。

福岡県も炭鉱の閉山で児童数が激減し、県外を受験する人がほとんどでした。私も愛知県で新規採用され、現在教職55年目でまだ学校にかかわっています。

スポーツと教育

山口県支部
特設課程保健体育科　S50卒　中村　龍夫

入学時は３万人程度だった宗像町が、卒業する時には５万人越えという日本が大きく成長する時代でした。

ラグビー部に入部し将来的には高校の教員・監督を目指し、講義・ラグビー・バイト等充実した４年間でしたが、選手としては怪我も多く今一つで、スポーツと教育の在り方の中でこれから「指導者」としてどうすればよいか考えるようになりました。

幸いにも山口県の高校教員に採用され、ラグビー部監督として花園大会３位まで進出することができました。最後は高校の校長として退職を迎え、昨年の秋には瑞宝小綬章を受け賜り、今春園遊会に出席し天皇皇后両陛下ともお話をさせていただきました。50年前の赤間での大学生活からまさかこのような時が訪れるとは思ってもいませんでした。

現在山口県支部の副会長をしていますが、城山会の太田会長が毎年ご来県の上、温かいご支援ご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げますと共に、後輩の活躍を期待しています。

武丸寮での日々

筑紫支会
小学校課程数学科　H３卒　深川　哲也

大学時代の一番の思い出は、寮生活です。私は、経済的な理由から寮を選びました。どこよりも破格の寮費に驚きましたが、何の飾り気もなく薄暗い灰色のその建物にも驚きました。初めて見学に来た者は、必ずと言っていいほど素通りして近くの小学校に行ってしまうほどでした。

しかし、実際の寮生活は大変刺激に溢れていました。酔いつぶれても部屋まで運べるように腕にマジックで部屋番号と二段ベッドの上か下かを書いてもらった新歓コンパや当時学祭より盛り上がった寮祭など、イベントも強烈でした。日々の生活では、寮に１台しかない電話に後輩の彼女からの電話がかかってくると「○○君、彼女からの電話です。」と館内放送をしてくれる優しい先輩や酔っ払って騒ぎまくる同輩や後輩に囲まれ貴重な体験（刺激的すぎて書けません）の毎日でした。今でもその頃の先輩や同輩と繋がっていられることは、幸せです。

木鶏荘での６年間

小郡三井支会
中学校課程保健体育科　H29卒　橋本　翔馬

平成25年の４月に福岡教育大学に入学すると同時に、剣道部の寮である木鶏荘での生活が始まりました。

平成27年に木鶏荘は、28年間の歴史に幕を下ろし、新木鶏荘となって今まで以上に快適に過ごせるようになりました。実は私の親父が木鶏荘の初代寮長をしており、木鶏荘最後の寮生、新木鶏荘の初めの寮生となった私は非常に感慨深いものがありました。

剣道はもちろんですが、剣道以外でもここには書き表せないくらい、先輩方のたくさんのご指導の下、心も体も強く成長することができました。今の自分があるのも、教育大学に進学し剣道部に入ったからだといっても過言ではありません。教員生活を送る中でも、多くの先輩方と交流を持たせていただき助けていただけること、非常に感謝しています。

大学で出会えた恩師をはじめ、諸先輩方、同期、後輩との出会いに感謝し、今までの経験を活かしながら、今後も目の前の子どもたちの成長に少しでも携われたらと思っています。

第二の人生を生き生きと

思い描く退職後の日々

福岡市支会　S52卒　髙木　寿子

小学校を退職して、早10年になります。その間、アジア美術館に２年間、幼稚園に８年間の勤務を経て、令和７年の３月でやっと正真正銘のリタイア生活を送ることとなりました。

そこで、４月からの私が思い描く退職後の日々について、その計画をお話ししたいと思います。

それは、ゴルフ、メンテ、会食です。こんなに長くゴルフをしているのに、こんなにうまくならない人は珍しいと言われるほど、はっきり言って下手くそです。でも、一緒にプレイしてくださる方はみんな優しくて、親切にしてくださることに甘えています。何よりも、大きな声で笑ったり、ドスドスと走ったり、プレイが終わってクラブハウスで食事をしたりすることが本当に楽しく、これからも健康である限り続けたいと思っています。

次はメンテです。どういうことかと申しますと、フルタイムで長い間働いてきましたので、体中が悲鳴を上げています。歯、耳、目、顔、肩、膝、お腹、数え上げればきりがないのですが、ゆっくりとメンテナンスをしようと思っている所です。

昔から、食べることが大好きで現在は要注意の状態ですが、それでもおいしいものに目がありません。スマホで『福岡のおいしいお店10選』『１度は行くべき博多のお店』等を見て、ぜひ訪問しようとメモしています。丁度、月に１回集まる会がいくつかあり、私が当番の時にはぜひ活用しようと考えています。

このように、３つの楽しみ事を思い描きながら、３月までの日々を頑張って取り組もうと考えています。

いつまで、健康で過ごせて、自家用車を運転できるかわかりませんが、できる限りお友達と仲良くしながら残された人生を満喫したいと思っています。

これまでお世話になった皆様方、色々とありがとうございました。又、これからも末永くよろしくお願いいたします。

発明クラブの指導員

嘉飯山支会　S54卒　松原　潔

私は平成29年に38年間勤めた小学校を退職し、今は筑穂交流センターで会計年度職員として勤務し、８年目を迎えています。

筑穂交流センターは、私が46年前の初任者の頃に通勤していた道の途中に位置しています。毎朝通勤するときに車窓から三郡山を仰ぎ見ると、22才の頃の自分に戻ったような気分になります。

定年退職して３年目に、飯塚少年少女発明クラブの指導員を始めました。４・５・６年生の子どもたちと、隔週の土曜日に公民館や大型商業施設の部屋で、ものづくりに楽しく取り組んでいます。

今年は１回目に工作キットを使ってラジオを製作しました。初めて音が出た瞬間の子どもたちの笑顔を見るたびに、指導員としてのやりがいを感じます。２回目は、ペットボトルをカッターナイフで切り開いて風車を作り、モーターと発光LEDを取り付けて、風力発電機を製作しました。風車の回転速度を上げるために、一生懸命に羽の角度を工夫する子どもたちの姿に、「この調子でいけば、君たちの中からノーベル賞受賞者が誕生するかも知れないね。」と思わず言ってしまいました。

この原稿を書いている現在は、「福岡県児童生徒発明工夫展」に向けての出展作品を製作しています。自分で考えたアイデアを実現するためには、たくさんの試行錯誤が必要となります。失敗を乗り越えて自分の作品をレベルアップしようとする子どもたちのために、地域の大学生や市役所の方々と協力して取り組んでいるところです。

本学学生の公立学校教員採用試験合格状況について

福岡教育大学　キャリア支援センター

令和７年度（令和６年度実施）の教員採用試験の出願及び合格状況は、〔表1〕のとおりです。出願者数は昨年度よりも増加し、入学時から４年次までの高い教員志望度を反映して、前年度よりも多くの合格者を出すことができました。教員採用試験に向けた日々の努力が実を結び、高い合格率を維持しています。

また、自治体別の合格者の内訳は〔表2〕のとおりです。昨年度と比較すると、福岡県・北九州市・福岡市・長崎県・熊本県・熊本市が増加し、九州・沖縄地区全体での合格者数は昨年度を上回りました。

〔表１〕　公立学校教員採用試験の校種別合格状況

令和６年 11 月５日現在

	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				その他				合計				
実施年度	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	一次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	合格実人数
R6	397	378	323	81.4	120	108	82	68.3	61	39	28	45.9	57	54	42	73.7	―	―	―	―	635	579	475	74.8	436
R5	398	372	304	76.4	116	101	83	71.6	59	36	21	35.6	66	61	45	68.2	1	1	1	100	640	571	454	70.9	425
R4	397	371	321	80.9	115	101	71	61.7	67	34	16	23.9	36	33	30	83.3	―	―	―	―	615	539	438	71.2	407

※１　出願者数、一次合格者数及び最終合格者数は、延べ人数
※２　令和６年度は、令和５年 11 月５日現在の暫定値
※３　各数値は、教育学部４年生、大学院生、教職大学院生及び特別専攻科生の状況

〔表２〕　公立学校教員採用試験の自治体別合格状況

令和６年 11 月５日現在

実施年度	九州・沖縄											小計
	福岡県	北九州市	福岡市	佐賀県	長崎県	熊本県	熊本市	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	（九州・沖縄）
R6	156	49	119	12	17	14	17	7	6	8	3	408
R5	149	47	117	12	21	11	8	13	8	14	4	404
R4	161	46	111	11	11	8	13	5	5	16	4	391

実施年度	山口県	広島県・市	岡山県・市	島根県	香川県	愛媛県	兵庫県	愛知県	横浜市	東京都	その他	合計（全国）
R6	10	16	5	6	4	4	2	1	4	2	13	475
R5	7	17	4	2	1	0	1	3	2	4	9	454
R4	9	20	4	0	2	3	0	4	1	0	4	438

※１　数値は、自治体ごとの最終合格者数（延べ人数）
※２　令和６年度は、令和６年 11 月５日現在の暫定値
※３　各数値は、教育学部生４年生、大学院生、教職大学院生及び特別専攻科生の状況

令和６年度　役員等の名簿

◆本　部

会　長	太田勝視
副会長（福岡市）	大城友記
副会長（北九州市）	西岡幸則
副会長（福　岡）	水﨑浩克
副会長（北九州）	日髙孝一
副会長（北筑後）	矢野俊一
副会長（南筑後）	江上靖則
副会長（筑　豊）	西園雅幸
副会長（京　築）	尾﨑和人
副会長（高　校）	黒木忠好
副会長（各　県）	角　正武
副会長（女性部）	守田孝子
副会長（本部）	谷　友雄
幹事長（本部）	笠　宏照
副幹事長（福　岡）	有馬昌一郎
副幹事長（北九州）	花田博之
副幹事長（北筑後）	塚本成光
副幹事長（南筑後）	牛島俊哉
副幹事長（筑　豊）	上野誠司
副幹事長（事務局）	田中和隆
副幹事長（事務局）	肥後弘美
副幹事長（事務局）	執行利雄
書　記	鍋島直明
書　記	島添幸治
会　計	穴井仁人
会　計	古賀真理子
事務局	安部真裕子
事務局	山ノ内あずさ

◆会計監査

福　岡	羽田野紀子
北　九	神谷貞夫
筑　豊	立和田正美
筑　後	猪口有三

◆幹　事　◎：部長　○：副部長

組織部	福岡市	曽根　徹
	北九州市	福田哲也
	福　岡	○古藤浩二
	北九州	垂水　隆
	北筑後	井上秋光
	南筑後	横山浩志
	筑　豊	◎國本裕介
	京　築	宮内裕美
事業部	福岡市	○大戸和廣
	北九州市	井上勝美
	福　岡	髙木陽一郎
	北九州	野副秀二
	北筑後	◎大神哲和
	南筑後	福永嘉治
	筑　豊	石堂昌彦
	京　築	小林正尚
広報部	福岡市	髙田真吾
	北九州市	江口恵子
	福　岡	◎陶山嘉一
	北九州	林　進一朗
	北筑後	○山口登志雄
	南筑後	武下英俊
	筑　豊	吉丸みさ子
	京　築	毛利克裕
女性部	福岡市	西川圭子
	北九州市	成住きよみ
	福　岡	◎馬場肇子
	北九州	○矢野恵子
	北筑後	市丸祥子
	南筑後	松山　薫
	筑　豊	永水積子
	京　築	水江久恵
	高校等	堤　香
青年部	福岡市	北口裕貴
	北九州市	日高慎一朗
	福　岡	◎辻　聡一郎
	北九州	國瀬慶太
	北筑後	益永康宏
	南筑後	○加市純大
	筑　豊	高山貴行
	京　築	瀬木惇仁

◆支会・支部長

福岡市	支会長	西村博之
	幹事長	杉山大樹
北九州市	支会長	髙木　眞
	幹事長	倉方寿士
福　岡	糟　屋	今長谷義孝
	糸　島	木村英樹
	筑　紫	長濱　潤
	宗　像	高田英也
	大　学	中山　健
北九州	遠　賀	樋口陽一郎
	中　間	青木美佳子
	鞍　手	下元照一
	直　方	長谷川順一
北筑後	朝　倉	古川晃久
	小郡三井	小田哲也
	浮　羽	柳瀬浩三
	久留米	桑野洋志
南筑後	三　潴	牟田口達朗
	柳川みやま	永田統計
	大　川	田中利明
	八　女	髙橋泰朗
	大牟田	大膳誠司
筑　豊	嘉穂・飯塚・山田	内藤正登
	田川市	窪田睦朗
	田川郡	川上三千夫
京　築	京都・行橋	中村賢治
	築上・豊前	橋内幸江
県立高校	支会長	城戸英敏
	幹事長	木村賢二
佐賀県	支部長	白水久夫
	事務局	小松孝之
宮崎県	支部長	南中道　隆
	事務局	大久保朋広
長崎県	支部長	中原弘之
	事務局	並川和彦
山口県	支部長	重枝良明
	事務局	高橋周仁
熊本県	支部長	岩下佳史
	事務局	
大分県	支部長	岩尾　亮
	事務局	伊東伸一郎

◆ 城山会顧問

前学長	櫻井孝俊
前城山会会長	毛利公亮
元城山会副会長	丸井　澈
	石橋省吾
	金子祐幸
県議会議員	今林　久

◆ 大学支援委員会

委員長	今林　久
副委員長	中島幸男
	山本直俊
	清武　輝
	松岡　賛
事務局長	毛利公亮

事業事績

4月
- 2日(火) 大学入学式
- 13日(土) 第1回役員会
- 19日(金) 会計監査会
- 29日(月) 第49回定期総会

5月
- 11日(土) 第1回幹事会、支会幹事長会
- 27日(水) 事務局会

6月
- 1日(土) 大学記念日
  熊本県・鹿児島県　保護者説明会
  北九州地区支会長・幹事長会
- 8日(土) 長崎県・佐賀県　保護者説明会
- 15日(土) 山口県・広島県　中国・四国地方　保護者説明会
  宗像支会、直方支会、鞍手支会
  田川郡支会総会
- 16日(日) 福岡市支会総会
- 22日(土) 大分県・宮崎県　保護者説明会
  久留米支会、朝倉支会、遠賀支会総会
- 26日(水) 事務局会
- 28日(金) 大学支会総会
- 29日(土) 山口県支部、三潴支会、八女支会総会

7月
- 7日(日) 第2回幹事会（広報部）
- 12日(金) 大川支会総会
- 20日(土) 北九州市支会総会
- 21日(日) 第2回役員会・幹事会（組織部・事業部・女性部・青年部）
- 26日(金) 浮羽支会総会
- 27日(土) 小郡三井支会、嘉穂・飯塚・山田支会総会

8月
- 3日(土) 柳川・みやま支会総会
- 4日(日) 夏期研修会
- 7日(水) 未来奨学金授与式
- 10日(土) 大分県支部総会、青年部長会
- 17日(土) 高校支会、熊本県支部総会
- 23日(金) 筑紫支会総会
- 30日(金) 中間支会総会（書面実施）

9月
- 7日(土) 糟屋支会総会
- 17日(火) 大学卒業式・修了式
- 28日(土) 南筑後地区拡大支会長会

10月
- 19日(土) 京築同窓のつどい（京築地区拡大支会長会）
  北九州地区拡大支会長会
- 26日(土) 北筑後地区拡大支会長会
- 27日(日) 北九州市支会女性部・青年部交流会

11月
- 10日(日) 第3回幹事会（広報部）
- 15日(金) ボランティア活動報告会
- 16日(土) 田川市支会総会
- 17日(日) 福岡市地区拡大支会長会
- 22日(金) 直方支会研修会
- 23日(土) 佐賀県支部総会・研修会
  福岡地区拡大支会長会
  北九州市支会城山同窓のつどい
  （北九州市地区拡大支会長会）

12月
- 1日(日) 第3回役員会・幹事会
  （組織部・事業部・女性部・青年部）
- 7日(土) 筑豊地区拡大支会長会
  城山同窓の集い　実行委員会
- 14日(土) 瀬戸勇次郎氏 2024 パリパラリンピック金メダル獲得祝賀会

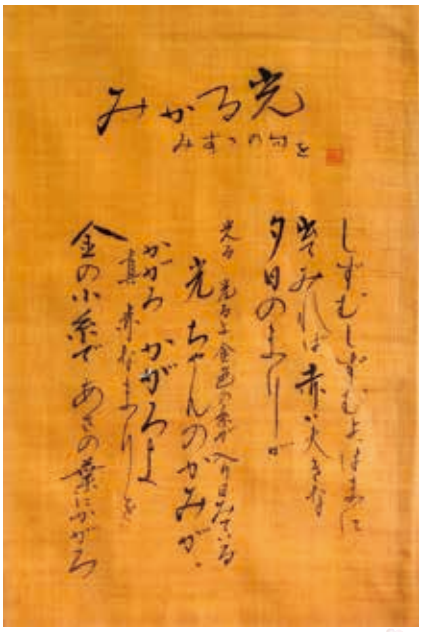
1月
- 11日(土) 宗像支会新年若手会員激励の会
- 18日(土) 第4回役員会、浮羽支会研修会
- 25日(土) 北九州地区拡大青年部研修会

2月
- 1日(土) 2月の集い
- 15日(土) 支会長会、大学支援委員会

3月
- 1日(土) 大学・新卒・若手会員情報交換会
- 24日(月) 大学卒業式・修了式

城山文藝

書



「光るかみ」
昭和56年卒　藤島　桂子
（久留米支会）

絵画

「記憶の欠片」
昭和56年卒　植松　祥之
（北九州市支会）

水彩画「有明慕情」
昭和38年卒　石橋　良知
（三潴・大川支会）

写真

「木漏れ日」
昭和51年卒　野村　芳宏
（嘉飯山支会）

川柳

露草を踏んで水守り棚田あぜ
ランドセル短い足が踊ってる
名工の腕が鳴ってる鑿（のみ）の音

昭和40年卒　小林　正文
（築上・豊前支会）

編集後記

この度、城山会会報第五十五号を目標としていた本年度内に発行できますことを有り難く思います。これもひとえに原稿や作品を提供いただきました会員の皆様、さらには本誌作成にご尽力いただきました担当役員や広報部の皆様のおかげです。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

今回より、新たに女性部の活動報告（二月の集い）の誌面も設けさせていただくことになりました。今後も、同窓の絆をさらに深める役割を果たす会報誌となるよう、より一層作成に努めて参りたいと思います。なお、これまでの会報誌を大学のホームページにも掲載しておりますので、機会がありましたら会員の皆様にご紹介いただければ幸いです。

（陶山　嘉一）